

親子の成長を支える体験型子育て支援実践の創造的継承の試みⅠ

保育所における実践体制作りのポイント

當眞千賀子

（九州大学大学院人間環境学研究院）

本発表は「形成的フィールドワーク」（當眞，2004/2006）^{※1}を方法論として親子の成長を支える子育て支援実践の創造的継承を可能にする実践システムを構築し、その形成過程を明らかにする研究^{※2}の成果の一部である。形成的フィールドワークとは、研究者が現場の人とは異なる役割を担いながら、現場の人々とともに実践を形成していく過程の中に研究を織り込むことにより、「基礎と応用」という二分法的枠組みを超えた研究と実践の関係を構築する方法である。従来の記述を目的としたフィールドワークと異なり、研究者が実践現場の人々と問題・課題を共有し、必要に応じて現場の実践に深く介入しつつ実践を形成していく課程を射程に入れたフィールドワークの方法となっている。

私は市立のA保育所と2006年に出会い、同年秋からの助走期間を経て2007年から「子育て・親育て・コミュニティ育てプロジェクト」と称する形成的フィールドワークを継続的に行っている。このプロジェクトでは、開始当初からその一環として保育所の子育て支援センターにやってくる親子の多様な課題に応える支援の試みを重ねてきた^{※3}。この取り組みを通して、居場所や交流の場を提供するだけでなく、親としての力量を高める学びが生まれることを支える体験型の子育て支援が可能になってきた。この体験型支援の実践には、従来の居場所交流型の支援とは別種の力量が求められる。そこで私自身が現場で直接親子とかかわりながら支援するプロセスを担当保育士に見てもらうことを軸として保育士の学びを支える実践の工夫を重ね、保育士の力量を育んできたが、その継承が現在の重要な課題である。親子を育む体験型子育て支援実践の保育士間での継承に関する形成的フィールドワークを進める中で、継承実践を支える保育所の体制として重要なポイントが見えてきている。本発表では、それらのポイントうち2点について報告する。

【ポイント1】保育所全体の中での子育て支援センターの位置づけの工夫

保育所の敷地内に設置されている子育て支援センターの中には、保育所本体と物理的にも実践的にも分離され比較的独立した運営をしているところが少なくない。A保育所では開設当初から保育室のひとつを子育て支援ルームに転用してきたため、物理的には分離されていない。しかしプロジェクト開始以前は、遊具を分け、所庭の活動エリアや利用時間なども保育活動とバッティングしないようにするなど独立性の高い運営を行っていた。プロジェクト開始後は、子育て支援センターの活動と保育の融合を質的にも量的にも高める工夫をしてきた。その結果、子育て支援センターの活動内容やその意義が保育所の職員全体で共有され、センター担当保育士と一般保育担当保育士相互の協力体制が深まってきた。継承実践に必要な保育士間の協働を実現するには、保育所全体の理解とサポートが必要であり、子育て支援センターが保育所本体と融合的に運営されていることは、継承のための実践づくりに欠かせない体制的特徴のひとつとなっている。

【ポイント2】支援センター担当保育士配置上の工夫

新年度の支援センター担当者の配置に際して、2名のうち1人は前年度からの継続者とすることでセンターに通う親子にとっての継続性を担保するとともに、センター担当保育士としての親子の理解や体験の継承を支えることが可能になっている。また、体験型の支援実践を身につけた保育士（熟達保育士）をセンターの隣の保育室の担当とし、その保育室も複数担当にすることで、熟達保育士が必要に応じてセンターに出向き新担当保育士の学びを直接支援しやすい状況を準備したことが大きな助けとなっている。さらに、熟達保育士とペアを組む保育士にも支援センター担当経験者を配置することが、センターと保育室の相互交流のスムーズな展開に繋がっている。

※1 當眞 千賀子（2006）. 形成的フィールドワークという方法一問一答に答える方法の工夫. 吉田寿夫（編），*心理学研究法の新しいかたち*（pp.170-194）. 誠信書房.

※2 科学研究費補助金 基盤研究（C）研究課題番号：60311148「親子の成長を支える体験型子育て支援実践の創造的継承のための実践システムの形成」研究代表者：當眞千賀子

※3 科学研究費補助金 基盤研究（C）研究課題番号：21610004「保育所をコミュニティ資源として親子の抱える課題に応える体験型支援実践の形成」研究代表者：當眞千賀子